

# J.LEAGUE NEWS

Official News Letter  
vol. 120  
29.Nov.2005



編集・発行  
社団法人日本プロサッカーリーグ  
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

Amazing, J.

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

## 2005 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ



© J.LEAGUE PHOTOS

## 千葉が初タイトル! PK戦でG大阪下す

2005Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝は11月5日、東京・国立競技場に4万5039人の観衆を集めて行われ、ジェフユナイテッド千葉が0-0からのPK戦を5-4と制してガンバ大阪を破り初優勝。賞金1億円、Jリーグカップ（チェアマン杯）、ヤマザキナビスコ杯（スポンサー杯）を獲得した。惜しくも準優勝に終わったG大阪には、賞金5000万円、Jリーグ盾が授与された。MVPに選ばれたのは千葉のGK立石智紀。賞金100万円、クリスタルオーナメント、ヤマザキナビスコ製品1年分を獲得した。

また、決勝前日に都内ホテルで行われた前夜祭では若手選手に贈られるニューヒーロー賞が発表され、千葉のMF阿部勇樹が選ばれた。

J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

NicoS

KONAMI

AIDEM

HEIWA

GE Money

Network Partner



League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想  
パートナー

朝日新聞



© J.LEAGUE PHOTOS

### 悲願の初タイトルをかけた両チーム

2005 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝は、「新たなチャンピオンの誕生」に注目が集まった。2回目の決勝進出となるジェフユナイテッド千葉は、7年前の決勝でジュビロ磐田に0-4と完敗し、タイトル獲得のチャンスを逃している。一方のガンバ大阪は、初めての決勝進出。どちらが勝っても初優勝というわけだ。

さらに、両クラブにとっては1993年のJリーグ発足以後、初のタイトルという悲願のかかった一戦でもあった。Jリーグ発足時の10クラブのうち、Jリーグ(年間、ステージ)、Jリーグヤマザキナビスコカップ、天皇杯全日本サッカー選手権大会に優勝したことがないのは、千葉とG大阪だけになっていた

からだ。

この時点における両チームのJリーグ順位は、G大阪が首位、千葉は勝点5差の5位。前者はもちろん、後者も優勝戦線に踏みとどまっており、ハイレベルな戦いが期待された。

### 押すG大阪、しのぐ千葉

前半はG大阪にチャンスが多かった。前日の記者会見で西野朗監督が「攻撃的なサッカーを披露したい」と抱負を述べたように、自慢の攻撃トリオ、FWの大黒将志、アラウージョ、MFフェルナンジーニョの早い動き出しから千葉ゴールに迫った。大黒のシュートはわずかにポストの外側を通過し、アラウージョのドリブル突破からのシュートは、千葉GK立石智紀が両足の太ももで挟むようにストップした。



© J.LEAGUE PHOTOS

G大阪はDF宮本恒靖が10月22日のJリーグ第28節、大分トリニータ戦で負傷したため、ベンチに座ってのスタート。代わって3バックの中心に入ったDFシジクレイが、千葉の攻撃を的確なカバーリング、空中戦の威力で阻止した。

一方、守勢に立たされた観のある千葉も、攻撃の機会をうかがう。オシム監督の指示は「G大阪の選手をマークするだけでは、自分たちのプレーができない。自分たちのプレーも

### 鈴木昌 Jリーグチェアマン

両チームとも守備の意識が非常に高く、集中力の切れない素晴らしい試合だった。

Jリーグヤマザキナビスコカップは年々、各チームが力を入れるようになってきている。ヤマザキナビスコカップの権威が上がってきていることだと大変うれしく思っている。

千葉は初タイトルとなり、これでチームも盛り上がるだろう。リーグカップ戦の優勝がリーグ戦にどう影響するかが楽しみだ。G大阪も今日の準優勝が、リーグ戦や天皇杯にいい影響を与えるかもしれない。今年残り2つのタイトルの方行方も楽しみだ。

### 千葉

### オシム監督

おめでとうはわたしにはではなく、選手、大勢いるクラブ関係者に言ってほしい。特に選手たちは、彼らのキャリアの中で一つの物事を成し遂げた。彼らは試合前の指示どおりにプレーしてくれた。PK戦は勝負のつかない試合を決着させるためのもので、運も必要だが、疲れて集中できない選手はPKで結果を出せない。スタンドはほぼ満員になったが、両チームのサポーターだけでなく、サッカーを好きな方々も含め、これだけの人が集まったということが重要だ。

### G大阪

### 西野監督

プレッシャーがかかって緊張が高まり、足がつるなど状態が悪いのは予想外だった。ゲームプランの立てにくいタフな試合だった。いい形では試合を進められなかったが、ガンバ大阪の現状の力を出し切れた。選手たちはよく戦ってくれた。きつ抗した試合で主導権は握ることができたと思うが、疲労が増し、前へ行こうという精神力が出なかった。(Jリーグも終盤に入るが)この段階に来てスタイルや方向性を変えることはしない。やってきたことを貫くだけだ。



するように」と、決して受け身に回るものではなかった。センターバックのスタヤノフも機を見て相手陣内に進出し、攻撃に絡んだ。

後半に入っても、シュート数13対3が示すように、G大阪が何度も千葉ゴールを襲う。大黒のミドルシュートを千葉のMF阿部勇樹が体を張ってブロック、フェルナンジーニョとスタヤノフの1対1における駆け引きなど、手に汗握るシーンの連続だった。

### 互いにしのぎ切りPK戦へ

しかし、G大阪は時間の経過とともに、攻

撃トリオを中心とする鋭い攻撃が影を潜めていく。走りに自信をもつ千葉が盛り返し、G大阪に疲労の色が現れる。「大黒をトップに、2人(アラウージョとフェルナンジーニョ)が流動的に動く」という西野監督のプランは、「ボールキープの時間が長くなり、千葉のマークを振り切れなかった。中盤で速いパス交換をしなければならなかったが、次第に個人のプレーになってしまった」。

このあたりの展開は、オシム監督の予想どおり。試合前には「最初にG大阪が勝負に出てくるだろう。だが、失点をしなければ相手は疲れ、われわれにもチャンスが回ってくる」と選手たちを送り出したという。そして90分が過ぎてロスタイム。電光掲示板側に陣取った千葉サポーターの目の前で、FW巻誠一郎がG大阪のゴールネットを揺らす。と

ころが、巻がボールを押し込む前に相手選手への反則があったという判定により、得点は認められず、試合は0-0のまま延長戦に突入した。

G大阪は90分の終了直前に投入した宮本の「試合をコントロールする力」(西野監督)に期待したが、千葉の勢いは衰えない。巻、MF佐藤勇人、スタヤノフらのシュートがゴールをかすめ、GK藤ヶ谷陽介の必死のセーブを誘う。G大阪も苦しい時間帯をしのぎ切り、ついに千葉にゴールを許さなかった。

昨年の決勝(FC東京対浦和レッズ)同様、延長戦も含めた120分間を戦っても得点は生まれず、決着は2大会連続5回目のPK戦に。G大阪の1人目、MF遠藤保仁のキックが立石に阻まれて始まった最後の戦いは、両チームとも成功が続いたが、千葉の5人目、巻が決めて決着。栄冠は千葉の頭上に輝いた。

MVP賞は千葉の立石が獲得した。昨年の土肥洋一(FC東京)に続く、GKの連続受賞だ。PK戦で遠藤のキックをストップしただけでなく、千葉の2倍となるG大阪の22本のシュートを浴びながらも無失点。90分が終了する直前、ゴール左隅に飛んだ遠藤のシュートをはじき、リバウンドを狙ったアラウージョのシュートを再びブロックしたシーンは見事だった。

### MVP

### 立石智紀

これまででは、いいところまで行ってダメだった。これをいい経験として、次につなぐことができれば。賞金は(過去に)もらったことがなかった。子供が生まれたばかりなので、ミルク代にしたい。(MVPに選出されたという)実感はない。なぜ、ここ(試合後の記者会見場)にいるんだろう、という感じ。

### 盛大に前夜祭

### ニューヒーロー賞に阿部勇樹

決勝に先立ち11月4日、都内のホテルに関係者約500人が出席して前夜祭が盛大に開催された。鈴木昌チアマンのあいさつなどの後、優勝を争うジェフ千葉、ガンバ大阪の選手たちが登場して決勝への力強い意欲を語った。ともにJリーグのタイトルを始めて獲得するとあって、千葉のオシム監督は「早くナビスコ杯を手にした」と抱負を語れば、G大阪の西野朗監督も「うちのいつものサッカーができれば、タイトルはついてくる」と反撃。大一番の前に並々ならぬ気迫をのぞかせた。

また、23歳以下の若手選手に贈られる「ニューヒーロー賞」の発表が行われ、千葉の阿部勇樹が初の受賞となり、賞金50万円、クリスタルオーナメント、ナビスコ製品1年分が贈られた。阿部は、すでに日本代表入りするなど日本の中軸選手として活躍しており、選考に当たった藤口光紀Jリーグ理事も「いまさらという感じはするが、この賞を取れることは大変名誉なこと」と紹介していた。阿部は「大変うれしい。これを弾みにナビスコのタイトルも取りたい」と話していた。



ニューヒーロー賞に選ばれた阿部勇樹

# 京都が優勝 4年ぶり2回目

J2

終盤に入り優勝、残留、昇格をめぐる戦いが熱気を帯びるJリーグだが、Jリーグ ディビジョン2 (J2) においては京都パープルサンガの優勝が決まった。J2での優勝は、2001年に続き4年ぶり2回目のことである。

京都はまず10月22日の第37節、ホームに水戸ホーリーホックを迎えて3-1と快勝。勝点を81とし、Jリーグ ディビジョン1 (J1) への昇格条件の一つである2位以内を確定した。そして11月6日の第39節、約2時間前に始まった試合で2位のアビスパ福岡が横浜



## 厳しい首位争い続く

J1

一方、J1の優勝争いは11月20日の第31節まで、ガンバ大阪が首位を維持するものの2位以下のチ

ームもチャンスをうかがい、依然として予断を許さぬ状況が続いている。

10月下旬から11月上旬は、G大阪にとって厳しい期間だった。第28節(10月22日)は大分トリニータ、第29節(同30日)はFC東京に、いずれも1-2と敗れて今季初の連敗を喫し、2位の鹿島アントラーズに勝点1差と迫られた。さらに、11月5日には2005Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝、同9日には第85回天皇杯全日本サッカー選手権大会4回戦(J2の横浜FCに3-3からPK戦勝利)と、ともに延長戦を含む120分間を戦い抜き、「これ以上のハンディはない」(西野朗監督)という試練だった。第30節は浦和レッズを2-1と振り切ったが、続く第31節は名古屋グランパスに1-2と敗れ、首位にとどまるものの2位とは勝点1差に。

その2位には2-0と川崎フロンターレを下したセレッソ大阪が勝ち上がってきた。鹿島は大分トリニータに1-1と引き分けて3位に後退



FCに1-3と敗れた時点で、5試合を残しての優勝が決まった。この日、京都はアウェイのザスバ草津戦に2-0の勝利を収め、タイトル獲得に花を添えた。

1年でJ1復帰を目指した昨年は、第31節に2位へ浮上したものの、5位でシーズンを終えた。しかし、今季は昨年6月に就任した柱谷幸一監督の下、開幕から首位を譲らぬ強さを発揮し独走した。

草津戦後、柱谷監督は「応援してくれたファン、サポーター、サポートしてくれたスポンサーやスタッフの皆様のおかげ」と感謝の意を表した。そして「これで満足してはいけない。技術、戦術、フィジカル、メンタリティーのすべてに、今の120パーセントの力をつけなければ」と、高い次元を目指すチームの課題を述べた。

また、福岡は第40節でコンサドーレ札幌を3-0と破ったことにより、次節で勝点3を獲得し、3位のベガルタ仙台が敗れ、4位のヴァンフォーレ甲府も敗れるか引き分けると2位が確定するという段階に到達した。

した。しかし、1位から3位までが勝点2差にひしめく厳しい戦いだ。

J1残留をめぐる戦いは、ヴィッセル神戸が大宮アルディージャに0-1と敗れてJ2降格が決定した。



# 広報対応における効果的なメッセージの発信

## Jリーグ広報研修会

Jリーグでは、毎年クラブ広報担当者を対象とした広報研修会を開催しているが、昨年および今年は「広報対応における効果的なメッセージの発信」をテーマに実施した。今回は、海外での経験も豊富な川村秀樹氏に組織を代表するスポークスパーソンのメッセージ発信について話をうかがった。

メディア・トレーニング、プレゼンテーション・トレーニングを主たる業務として10年以上が経ちました。モーターショーでのプレゼンテーション、新社長としての初めての記者会見、不祥事の責任を取って社長が退任を発表、さらには、国会での証言のリハーサル等、内容は多岐にわたります。お会いした方々は数百という数になると思います。こうした私の経験から、スポークスパーソンに持っていただきたい姿勢と技術を5つに絞って簡単にご説明します。

### 1 矜持

組織を代表して話をする方に求めるポイントの一つあげるとするならば、矜持(きょうじ)という言葉になります。矜持という言葉は自分自身と組織に対する健全な自信を意味します。確固たる信念を持ち、その姿勢がブレません。多少、頑固なくらいがよいと考えています。こういう方は、言葉数は少なくても、自分自身の考えと表現を持っています。論語の中に、「巧言令色、鮮(すくな)し仁」という言葉があります。言葉を巧みに操るような人は、たとく人徳に欠けるという意味です。私は、矜持という言葉に、他者に対する配慮という意味も加えて考えています。

メディア・トレーニングというと、説得力のある話し方、巧みな質疑応答能力を習得することだと考えがちですが、基本は信念です。信念のない人が話術を習得しようとしても、人を動かすスピーチはできません。反対に、歴史に残る名演説をした人はすべて雄弁家というわけではありません。

### 2 メッセージ

聴衆(もしくは読者、視聴者)の記憶に残る言葉は、短く、わかりやすく、そして、時代を反映しています。現在の状況を聴衆と共有するだけではなく、そこから、将来に目を転ずるような力を持っています。「所得倍増計画」「日本列島改造」「戦後は終わった」「自民党をぶっ壊す」といった歴代首相の言葉は、その時代に国民が抱えていた期待と不安を的確に表現しています。メッセージは、日ごろから状況を観察し、自らが採るべき行動を考えている人の頭に浮かんでくるものです。

### 3 情報

スピーチをする場合には時間という制約があります。新聞のインタビューでは、編集(文字数)という制限がついてきます。こうした枠の中で、最適な情報を提供する能力が必要となります。読者が求めている情報を、理解しやすい(記事に書きやすい)形で提供せねばなりません。読者の関心は千差万別です。たとえば、皆様のチームの来季の構想を語るという状況を考えてみましょう。チーム編成の方針、チーム力を底上げする方法、有力選手の起用法など、語るべきテーマは多く、各々のテーマに関わる情報が数限りなくあります。この情報をどのように料理して、提供するべき

かを考えねばなりません。このような場合、読者の期待を中心に考えていきます。サポーターが知りたい情報、そして、サポーターの強い支持とそ野を拡大できるような情報を提供することが基本になるはずで。

### 4 ストーリー

スポークスパーソンは情報に「思い」を載せて伝えるという役割を担います。読者・視聴者の共感を獲得するためには、言葉に力を与える必要があります。その力の源泉は他者に対する思いやりです。数年前、ヤクルト・スワローズが優勝した際に、当時の若松監督は、「ファンの皆様(ここで一瞬、言葉に詰まります)、おめでとございます」という名言(迷言?)を口にしました。これは準備されていた言葉とは思えません。日ごろからのファンに対する監督の思いが結実した言葉となって出てきたものと考えられます。聴衆(読者、視聴者)に情報を提供するだけでなく、その情報を共有できる喜びを表現せねばなりません。情報は整理するだけでは不十分です。

### 5 表現力

スピーチの冒頭で聴衆の心をつかんだり、取材にあたっては記者を引き込むような話をされる方がいます。こうした才能は持って生まれたものとする人が多いようです。多くの方々にトレーニングを実施してきましたが、こうした考えは誤解であると申せます。話にリズムがある、豊富な語彙(ごい)を操れる、言葉以外の表現(たとえば表情やジェスチャー)が豊かといった特徴を持っておられる方もいますが、こうしたことは基本ではありません。

話し合い(たとえば、取材を受ける)の目的を把握して、受け手が関心を持つ情報を整理して、分かりやすく伝えることが基本です。聞き手が持つさまざまな制約条件(時間的制約、理解力、関心の度合い)に応じて、話し手が確信している内容に焦点を絞って話をするのです。これが表現力の基本です。

大手民間企業の新社長にトレーニングをさせていただいた際の経験をお話しします。最初にお会いした際には、話し上手とは思いませんでした。社長は、「お客様の視線」という言葉を繰り返して使われました。言葉そのものは特に目新しいものではありません。しかし、支店長時代の経験からこの言葉が社長の頭の中心にあることをお聞きして、このありふれた言葉を中心に話を展開することの重要性を理解しました。その場の思いつきの言葉は人を動かしません。長年にわたってひとつのことを考え続けてきた人々には、その思いを伝える言葉があります。仕事に誇りを持ち、常にお客様(他人)に関心を持っている人には、こうした言葉が与えられるようです。だからこそ、矜持という姿勢を保ち続けたいものです。



川村秀樹 (かわむらひでき)  
外資系PR会社駐在員にワシントンに駐在し、共和党ケンタッキー州選出のミッチ・マコーネル上院議員のインターン・スタッフに。1997年、ヒル・アンド・ノウルトン・ジャパン入社。1998年同社代表取締役、2000年同社社長就任。2001年より同社非常勤アドバイザー。外国企業と日本企業のMSAに関する広報業務、大手企業のメディア・トレーニングなどを手がける。経団連、早稲田大学、ジョージタウン大学など、世界中で積極的に講演活動も行う。著書に、「経営者のためのメディア・トレーニング」[広報と演出](共に経済広報センター)。

## 「Jリーグ広報研修会」開催

Jリーグは、10月25、26日、クラブ広報担当者を対象とした広報研修会を開催した。毎年1回実施しており、今回は「広報対応における効果的なメッセージの発信」がテーマ。クラブのメッセージを効果的に発信するために、幹部へのブリーフィングの実践、非常時における危機管理対応、実際の記者会見形式でのトレーニングなど、記者会見の実践を中心に研修を行った。全Jクラブから約40名が参加した。

また、「宣伝会議」の編集長、田中理沙氏に「広報がブランドを作る」をテーマに講演していただいた。



## 特別セミナー「ドイツを代表するGMに学ぶ」 開催



Jリーグは、11月7日、ドイツからライナー・カルムント氏を招聘し、セミナーを開催した。カルムント氏は長くバイヤー・レバークーゼンのGM(ゼネラル・マネジャー)を務め、同クラブをドイツ屈指の強豪に育てた功労者。現在2006FIFAワールドカップのドイツ・ノルトライン・ヴェストファーレン州のワールドカップ大使を務めている。また、Jリーグ設立直前にドイツ・サッカーの制度全般に関する貴重な情報を開示いただくなど縁の深い方でもある。

JFAハウスで開催された講演でカルムント氏は「現代プロサッカーにおける構造と戦略」をテーマに、バイヤー・レバークーゼンの組織体制、マーケティング戦略およびメディア対策を紹介した。メディア出身でもある同氏は、特に監督、選手を含めたクラブ全体のメディア対応の重要性を指摘、2時間半にわたる講演を「目標設定」「能力と情熱」そして「クラブ全体の固い結束」がクラブを成功に導くと強調した。講演には、Jクラブ関係者、マスコミ関係者など約50人が参加した。

## 「Jリーグ百年構想シンポジウム」 開催

「日本におけるドイツ年 2005/2006」参加事業「日独サッカー交流展」(11月10～29日 後援：Jリーグほか)の一環として11月13日、Jリーグ百年構想シンポジウム「ドイツに学ぶ日本のサッカー」(主催：ドイツ文化センター、後援：日本サッカー協会、Jリーグ、朝日新聞社ほか)が都内で開催された。

“日本サッカーの父”といわれ、日本サッカー殿堂入りしたドイツ人コーチ、デットマル・クラマー氏を招き、第1部ではクラマー氏から「サッカーはシンプルなスポーツ。ゴールを決めるために効率よいトレーニングを行う必要がある」と日本サッカーへのアドバイスや「さらなる成功を目指し、日々向上してほしい」とのJリーグへのメッセージをいただいた。続いて岡野俊一郎日本サッカー協会名誉会長から「クラマーさんは日本サッカーのみならず、スポーツ指導者にコーチ学を教えてくれた」、サッカーライター賀川浩氏から「クラマーさんを知り、サッカーを日本に根付かせたいという気持ちが生まれた」とクラマー氏やドイツのサッカーから学んだことなど日独サッカーの



つながりについての話をしていただいた。

第2部では、荒田忠典氏(Jリーグ経営諮問委員、元ジュビロ磐田代表取締役社長)、傍士銚太氏(日本政策投資銀行)が参加し、ドイツを

モデルとする「Jリーグ百年構想」について、各クラブの事例などを紹介しながら語り合った。荒田氏からは「百年構想はクラブづくり、町づくりのガイダンスである」として、ジュビロ磐田の地域密着活動を中心に「百年構想」がもたらす効果とJリーグの今後の課題について、また傍士氏には「クラブとホームタウンは相互に理解、認識が必要」として、ドイツの地域クラブ事情について「地域とホーム」と題したメッセージをそれぞれいただいた。



写真提供：フォート・キシモト

## 2006JOMOオールスターサッカーは鹿嶋で開催

Jリーグは、11月15日に開催した理事会で、2006年のオールスターサッカーを「県立カシマサッカースタジアム」で開催することを決定した。オールスターサッカーは、サッカーの普及、発展のため日本全国で開催しており、茨城県では初の開催となる。

### ■ 競技場名

県立カシマサッカースタジアム

所在地：茨城県鹿嶋市神向寺字後山

収容人数：41,800人

## 2005Jリーグアウォーズ 功労賞にレスリー・モットラム氏 (JFA 審判チーフインストラクター)

Jリーグは、本年末にJFA審判チーフインストラクターを退任するレスリー・モットラム氏に対し、Jリーグアウォーズでは、功労賞を贈ることを決定した。同氏は、1996年に外国人招聘審判員として日本に招聘され、2001年までJリーグ主審として約200試合を担当した。

現役引退後は、JFA 審判チーフインストラクターとして、判定基準を示した「スタンダードビデオ」を作成し、審判研修会やSRキャンプなどで一貫した指導を行い、日本における審判員の強化・育成に努めた。

また、Jクラブに対して、シーズン開幕前のルール講習会や競技規則の説明会などを開催し、クラブと審判員間の相互理解のために尽力した。メディア・サポーターに対しては、定期的にメディアカンファレンスを開催するなど競技規則の理解を深め、レフェリングの知識を幅広く伝える役割を担った。

氏名・Leslie Mottram (レスリー・モットラム)  
生年月日・1951年3月5日(54歳)  
出身・スコットランド

## Jリーグ公式試合 エントリー人数の変更

Jリーグは、11月15日に開催した理事会で、Jリーグの公式試合にエントリーできる選手の人数を変更することを決定した。選手交代における監督の選択肢を増やし、試合の質を向上させることを目的とする。

〔リーグ戦にエントリーできる選手の人数〕

現行	変更後(2006年より)
各試合にエントリーできる選手の人数は、1チーム16名以内とする。 (「2005Jリーグ試合実施要綱」第22条)	① J1リーグ戦の各試合にエントリーできる選手の人数は、1チーム18名以内とする。 ② J2リーグ戦の各試合にエントリーできる選手の人数は、1チーム16名以内とする。 <small>(J2リーグ戦は従来通り)</small>

〔その他の大会にエントリーできる選手の人数(変更後)〕

- ③ リーグカップ戦 1チーム18名以内
- ④ J1・J2入れ替え戦 1チーム18名以内
- ⑤ スーパーカップ 1チーム18名以内
- ⑥ Jサテライトリーグ 1チーム16名以内
- ⑦ オールスターサッカーの出場選手数については、別途検討する。

## Jリーグ百年構想PRビジュアル 第3弾「ヒッチハイク」篇

「Jリーグ百年構想」メッセンジャー「Mr.ピッチ」の2005年プロモーションテーマは『スポーツの種を全国へ』。ザスパ草津、徳島ヴォルティスが新たにJリーグの仲間に加わり、30クラブでスタートしたJリーグ。「Mr.ピッチ」は、全国に広がったJリーグの活動を応援し、さらに町から町へ、Jリーグの夢を運び、スポーツの種をまきに旅をする。

イメージビジュアル第3弾『ヒッチハイク』篇では、「日本中に芝生のグラウンドを増やしたい」と願うMr.ピッチが、町から町へ新たなスポーツの普及に出かけていく様子をビジュアル化している。雑誌広告、Jリーグ・Jクラブ広報誌、試合会場の大型



© J.LEAGUE PHOTOS

映像等を媒体に、「Mr.ピッチ」がJリーグの理念実現に向けて努力する姿を紹介する。

## 「わたしたちの芝生校庭自慢！ 大募集」キャンペーンを実施



Jリーグは、「Jリーグ百年構想」の一環として、全国に芝生の校庭やグラウンドが広がる活動を応援しているが、この応援企画として、「わたしたちの芝生校庭自慢！大募集」のキャンペーンを実施している。

全国の幼稚園から高校までを対象に10月20日～12月20日の期間、芝生の校庭・園庭自慢を募る。応募いただいた芝生校庭自慢は、Jリーグ公式HP内で公開するとともに、Mr.ピッチのポスターなどをプレゼントする。さらに、募集校でのサッカー教室なども実施する。

応募はJリーグ公式HPから応募用紙をダウンロードして送付。

詳細は、<http://j-league.or.jp>

# ローマは一日にして成らず、されど全ての道はローマに通ず 手探りから始まったCSC

Jリーグキャリアサポートセンター ◎ 八田 茂 (はった しげる)

早いもので、2002年にキャリアサポートセンター(CSC)が発足してから3年半が経過しました。最近やっと「プロスポーツ選手のキャリア支援」という言葉がマスコミでも市民権を得始めてきたかなと感じます。思えばこの仕事に従事始めた4年前は「それって???」というのが周囲の印象でした。

CSCは、2000年の選手協会アンケート結果(引退後に不安を感じる選手85%、引退後の準備の出来ていない選手85%)を受けて2001年チェアマンプロジェクトとして立ち上がりました。私自身、2001年10月に(株)リクルートからの出向職員として、このプロジェクトのただ1人の専任スタッフ職として着任し、4年間「エスキモーに氷を売る」「アフリカで靴を売る」精神に習って、「トライ&エラー」を合言葉に日本初の組織の運営に取り組んできました。以下、CSCのメイン活動の誕生秘話を当時の失敗談も交えて紹介します。

## ■ 選手OB20人への全国行脚体当たり取材!

出向職員としての仕事始めは「OBのセカンドキャリア取材」でした。とにかくそれまでは引退した選手のデータベースは一切存在せず、どこにどんなOBがいるかは、まさに手探り状態でしたので、リーグ事務局の幹部やスタッフに聞きまくり、めばしいOBをピックアップして全国取材行脚を開始しました。連絡を取ったOB全員に取材に応じていただき、かつプロ選手経験を糧に志を持ってセカンドキャリアに取り組んでいた事、異口同音にCSC設立構想に賛同ならびに今後の協力にも快諾いただいたのは、その後の悪戦苦闘を支える発奮材料になりました。この取材をきっかけに制作したOB紹介パンフレットは現在の「Off the Pitch」の原型になりました。

## ■ CSC広報第1弾は元気がよく空振り!

最初のポスターは、「立ち上がった活動を一刻も早く選手やクラブ関係者に認知させたい!」一心で当時鹿島アントラーズに所属していた柳沢敦選手に登場いただき「ピッチで燃え尽きたいけど、ピッチで人生は終わらない」というキャッチコピーのポスターを制作し、各クラブハウスでの掲示をお願いしました。しかし多くのクラブでは、他クラブの主力選手のユニホーム姿がメインビジュアルのポスターを掲示してもらうことは難しかったようで、活動初期の大いなる反省点となりました。

## ■ 開店休業!で始まった「インターンシップ制度」

現在は現役選手向けの重要なセカンドキャリア啓蒙施策になっているインターンシップ制度も初年度は希望者ゼロに終わりました。今思えばインターンシップの意味も分からない対象者への認知広報不足によるものですが、クラブハウスのロッカールームへの広報ポスター

や強化スタッフへの案内レターで少しは参加者が出るのでは?という甘い読みが見事に空振りにつながりました。翌年は、NFLの選手向けインターンシップ広報ビデオをクラブ訪問時に上映しまくり「日本で最初に取り組むのはJ選手しかいない!」と檄(げき)を飛ばして、どうにか5名の参加、昨年は13名、今年は希望者120名を数えるまでになりました。「ローマは一日にして成らず」を実感しています。

## ■ 定番企画となったOB交流会

センター発足初年度、とにかく選手とのフェイスツーコミュニケーションを優先すべく全クラブ訪問説明会を実施しました。しかし当初は、我々の説明にも反応が薄い「糠(ぬか)に釘」状態で、打開策として急遽考えたのが、体当たり取材で協力を約束してくれたOBによるクラブハウスへの出張講演会(OBが引退後の体験談を語り、選手と交流する企画)でした。初年度実施を了解してくれた10クラブでの選手の反応の良さ(現役時代からの、セカンドキャリアを考える事の必要性や人脈拡大の重要性を強く感じた!)の感想を随所で聞けたにスタッフ一同感動して、その後のCSCの現役選手向け定番企画となりました。

## ■ Jリーグ選手版就職情報誌「Off the Pitch」の誕生

とにかくセンター発足当初から、終始一貫して「具体的なOBの仕事体験情報による引退後のイメージ作り」を活動の優先事項にしてきました。そのためのガイドブックとして、OBの体験談満載の「選手向けの就職情報誌」の制作に初年度から着手しました。リクルート時代の同僚で情報誌の編集長経験のあるサッカー好き女性が会社を退職した事を聞きつけて、強引に口説いてガイドブックの実質的な編集長として巻き込み、彼女が次々とサッカー好きな制作関係者を手配して、低予算ながら完成度抜群の日本発のガイドブック「Off the Pitch」が2002年11月誕生。その後毎年全選手に配布し、関係者から高い評価をいただいています。

まもなくシーズンオフとなり、インターンシップやセカンドキャリア相談会の季節を迎えます。今年のインターンシップ参加人数目標は昨年の倍を超える30名です。5年目を迎える来年度は①引退後の進学拡大のための優待入学可能な大学開拓②選手が参加しやすい教育研修機会の更なる提供③私立高校、大学のサッカー部や大手サッカースクール、フットサル施設での指導者求人開拓の強化④活動を応援してくれる選手OBの組織化などに注力しながら、「ローマは一日にして成らず、されど全ての道はローマに通ず」の精神で歩んでいくつもりです。関係各位の尚一層のご指導ご鞭撻を心よりお願いします。

## PROFILE



49歳・山梨県出身、青山学院大学卒・(株)リクルートで営業、制作、代理店統括・新規事業企画等に従事し2001年10月Jリーグ事務局に出向、2002年10月に独立、(有)人生計画研究所を設立しキャリアサポートセンターの企画統括業務を受託中。



## 天皇杯をtotoで予想しよう!



対象試合 第85回天皇杯の5回戦、準々決勝、準決勝

対象くじ ・ totoGOAL3

NEW ・ toto5 (5試合のホームチームの「勝ち」「負け」「その他」を予想)

NEW ・ totoGOAL2 (2試合 (4チーム) の得点を予想)

● toto公式サイト (<http://www.toto-dream.com>) とイーバンク銀行サイト (<http://www.ebank.co.jp>) から購入できます。

● 一般販売店とコンビニエンスストアでは販売されません。

詳しくはtoto公式サイト <http://www.toto-dream.com> をご覧ください。

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

<http://www.naash.go.jp/toto>

19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。



写真提供: © J.LEAGUE PHOTOS  
© フォート・キシモト



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。